

# Suma Tomogaoka 通信

考  
行  
知

兵庫県立須磨友が丘高等学校 総合学科推進部  
令和6年度 第5号 3/19

## 令和6年度 第23回総合学科発表会 開催される

令和7年1月25日(土)、第23回総合学科発表会が開催されました。「産業社会と人間」や「課題研究」でお世話になった企業・大学関係者の方々をお招きし、神戸市内の中学校から40名以上の中学生に來校いただきました。生徒それぞれが自分自身の学びを発表することで、自信を培ったり、達成感を感じられる体験になったと思います。また発表を聴くことで、「自分の研究をより深めたい」、「次年度の課題研究が楽しみ」という、前向きな意欲を感じることもできました。今年度は、県立神戸甲北高等学校の生徒をお招きし「総合的な探究の時間」の発表が行われました。本校と同じ総合学科高校として、このような交流・発表の機会を通して刺激をもらうことができました。

### <生徒感想(抜粋)>

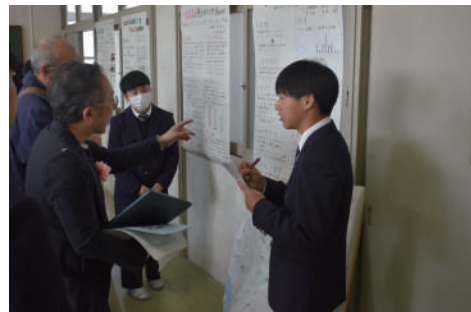
- ・今までしてきたことの発表が見られて良かった。自分のポスター発表や他の人の課題研究を通してアドバイスをもらったり、新しい気づきができただけの良い機会となった。(2年)
- ・友が丘の生徒がどのようなことに興味関心をもって研究に取り組んでいるのか、またどのような経験や考えに基づいてテーマを決めたのかを聞くのが楽しかった。(2年)
- ・生徒の努力の成果がよく見られた1日で、特に2年生のポスター発表では、今後の自分に活かせる場所が多くあった。来年自分も研究するので、先輩のアイデアを吸収していきたい。(1年)
- ・いろんな人の発表を聞くことで、新たな発見や知識を得ることができ、考えを深められたので良かったです。2年から始まる課題研究も頑張りたいです。(1年)

### <来場者感想>

- ・「総合学科」というだけあって、本当に様々な領域について勉強していらっしゃるのだと感じました。また、学年が上がるにつれて研究のプロセスや導くものがはっきりとしていき、発表の内容や質も著しく向上しているがよく分かりました。この学校の教育プロセスの素晴らしさとそれに応える生徒のみなさんの力は他の学校ではなかなか見られないものだと考えます。(企業・大学関係者)
- ・実社会では正解のない問題がほとんどで考える力が大切です。こういった総合学科で学んでいることが、社会に出て考える力につながるのではないかと思います。そういった取組が教育の現場でおこなわれているのが見られて本当に良かったと感じました。(企業・大学関係者)



オープニング 3年



ポスターセッション 2年



課題研究発表 3年



「産業社会と人間」発表 1年



ポスターセッション 2年



課題研究発表 3年

## 2年次 「課題研究」 発展的な取り組みの報告

### 【第17回サイエンスフェア in 兵庫】

1月26日(日)、ポートアイランドの神戸大学統合研究拠点等の複数の研究施設において「第17回サイエンスフェア in 兵庫」が開催され、本校2年の名田泰介さん、藤井優芽さん、山崎悠依さん、呉祐樹さんの4名が参加して、課題研究の取り組みをポスターで発表しました。兵庫県内でSSH校に指定されている16校に加わり、ハイレベルな発表・質疑応答を経験し、今後の研究のデータ整理・分析に関する深い知見が得られました。スーパーコンピューター「富岳」の見学や大学院生のサイエンスカフェ「理系進路と大学生活」もあり、情報科学の最先端を目の当たりにする一日となりました。

### <生徒の感想(抜粋)>

- ・多くの先生方に発表を聞いていただいたり、ポスターを見ていただいたりしてとても良い経験になった。研究のデータの取り方やグラフの作り方、これからどのように活かしていくかなど様々なアドバイスをいただき研究を深めていきたいと思った。また他校の生徒の発表が非常に面白く有意義な時間になった。



### 【令和6年度兵庫県立高等学校探究活動研究会】

2月8日(土)、神戸市東灘区の歴史的建築物、御影公会堂において「令和6年度兵庫県立高等学校探究活動研究会」が開催され、本校から2年の名田泰介さんが参加しました。午前中は白鶴ホールにおいて、高田短期大学特任教授の大野照文先生による基調講演「知恵と学びと生きること」を聴き、地質・生物学的な知見から「探究活動の意義」について学びました。午後からはポスター発表を行いました。兵庫県内で80校以上が参加校し、合計300名を超える大きな発表の場となりました。

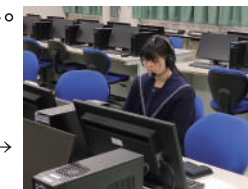
今回から優秀ポスター投票制度があり、優秀と思われるポスターにシールを貼っていく形式で、名田さんも多くのシールを獲得しました。今回の発表を糧にさらに研究をブラッシュアップして欲しいと思います。



### 【マイプロジェクトアワード 2024 地域 Summit オンライン】

2月1日(土)、NPO法人カタリバが主催する「マイプロジェクトアワード2024」のオンライン Summit が開催されました。2年の櫛下町佑香さんが書類選考を勝ち取り、課題研究で取り組んできた自身の課題研究について発表しました。サポーターの方や、他校の高校生に発表を聞いていただき、率直な感想や意見、質問などをもらいました。自分の研究の良い点・課題点を外部の方々から指摘して頂き、さらに改善する部分も見つかりました。

また、他校生の発表の質疑応答に参加し、自分の研究の立ち位置を確認することが出来ました。全国大会出場はならずでしたが、発表に全力で取り組んだ経験は必ず実を結ぶことと思います。



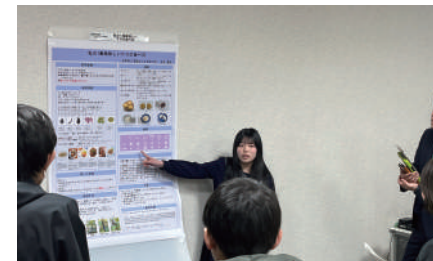
マイプロ →

探究フォーラム ↓

### 【伊丹探究フォーラム 2024】

2月1日(土)、市立伊丹高等学校主催「伊丹探究フォーラム」が伊丹市産業振興センターマルチメディアホールにおいて開催されました。本校からは岩田夏姫さん、柴田怜央奈さん、竹本栄太さんの3名が参加しました。

関西大学教育推進部、山田剛史教授の基調講演、各高校の探究活動実践紹介に続いてポスター発表を行いました。その後はパネルディスカッション、情報交換会も行われました。たくさんの生徒、先生方との交流を通して、他校生徒が取り組む探究活動について広く触れる、またとない機会となりました。



### <生徒の感想(抜粋)>

- ・私の研究に興味を持ってくださる学生や教師、教授の方が沢山居て、この研究を頑張ってきてよかったと思いました。関西学院大学の教授の方の話の中で、「誰かに評価されようとする研究は必要ない」という言葉が印象に残っています。これを聞いて、自分が本当にやりたいこと、興味があることをこれからも探究していこうと思いました。熱心に研究をする人が集まっていたので、とても刺激的な1日になりました。



発表者全員で集合写真



## 1 年次 「産業社会と人間」

### 2 分間スピーチ

1月31日(金)、1学年の「産業社会と人間」の授業において、「2分間スピーチ」が行われました。生徒たちは、この一年間で学んだことや気づきを振り返り、2分間にまとめて発表しました。スピーチの内容は多岐にわたり、成長した点を振り返る生徒もいれば、新たに気づいた自分の課題を率直に語る生徒もいました。それぞれが自分自身と向き合い、この一年の学びを言葉にすることで、さらに理解を深める機会となりました。この経験を通じて得た気づきや学びを活かし、来年度の課題研究でも大いに成長し、その成果を発揮してくれることを期待しています。今後も、学びを深めながら、一人ひとりが自らの目標に向かって歩みを進めてほしいと思います。

#### 【生徒の感想】

- ・今回の発表を通して、今回の反省点をすぐに克服することはできないけど、次にどう活かせるか考えていきたい。
- ・一年間、一緒に産業社会と人間を学んできて、みんなの考え方が違っていったことに驚いた。
- ・この発表会を通して、何を学び、どのように活かしていくのかを聞くことができ、共感した部分が多かった。



### 静岡県立駿河総合高等学校とのオンライン交流会

2月12日(水)、静岡県立駿河総合高等学校との間で、オンライン交流会を実施しました。駿河総合高校は本校と同じ総合学科で、総合的な探究の時間に「地域防滅災コミュニティプロジェクト」を実施しているそうです。本校からは、1年次のクロスカリキュラム探究で防災について取り組んだ4つのゼミから、代表生徒6名が参加し、「防災」をテーマに各校の取り組みについて報告や意見交換を行いました。県外の高校と交流することができ、よい刺激にもなりました。



#### 〈生徒の感想〉

- ・兵庫県以外の県での防災に対する知識や取り組みなどを知ることができました。震災が多いこの国で今の自分たちにできることは何なのか、災害が起きた時に何をすべきなのかを改めて考えさせられました。
- ・質問を多くされた時は戸惑ってしまいましたが、臨機応変な対応もできたため、この先のための力になったと思う。駿河総合高校の方達は多くの視点から研究を進めていて、2年次の課題研究の参考になった。

### 「with・・・ 若き女性作家の生涯」を鑑賞して

3月6日(木)に産業社会と人間の時間で「with・・・ 若き女性美術作家の生涯」を鑑賞しました。本校卒業生である佐野由美さんの生き方をテーマにしたドキュメンタリー映画です。今年は映画の監督をされた榛葉健監督にもお越しいただき、映画鑑賞の後、講演をしていただきました。映画が作成されたその後のお話も聞くことができ、生徒たちはそれぞれの感想を持ったようです。佐野さんの生き方・考え方に触れ、自分自身のこれからの指標としてほしいと思います。

#### 〈生徒の感想〉

- ・私自身、佐野さんのようにたくさんの人から愛されることはきっとないと思う。しかし、周りの人に少しでも愛されるような人生を送りたいと願う。そして、自分自身が生きてよかったと思える日を迎えたい。
- ・自分で描いた絵を通して、ネパールの人たちとつながるきっかけになったり、佐野さんの絵でたくさんの人が心を動かされたと感じました。
- ・文化や言葉が違っていても、絵を描くことで人と人がつながることができるということをこの作品を通して感じました。
- ・自分の好きなことを「役に立たない」と決めつけるのではなく、そこから立ち直って自分の好きなことを極め続けるというのがものすごく大切なことなのではないかと思った。
- ・人生は一度きりだから、失敗を恐れずに行動することがとても大事だとこの映画を通して学ぶことができました。
- ・ただ他者を助けることだけでなく、互いに支えあうことの重要性を改めて認識させられました。



## トルコ学生とのオンライン交流会

3月7日(金)、トルコのギュンドードウ中学校(ブルサ)、ベネクタシュ・アタテュルク・アナトリア高校(イスタンブール)とオンラインで繋ぎ、学生同士の交流会を実施しました。今回の交流会は、日本とトルコの文化、都市の災害リスク、防災教育を含む防災リスク軽減の実践についての理解を深める機会とし、本校からは、1年次のクロスカリキュラム探究で「防災」をテーマに取り組んだ4つのゼミから、代表生徒9名が参加しました。

生徒たちは慣れない英語でのプレゼンテーションやQ&Aに苦戦しながらも、英語を通じて異なる文化圏の人々と交流できることを楽しんでいました。



#### 〈生徒の感想〉

- ・今回トルコの学生との交流会でお互いの文化や地震が多い国同士で防災についての話をしてとても良かったです。防災では似ている面が多いのが印象的でした。どちらの国も公用語が異なるけれど、英語を使うことで皆が話すことができました。発表では、自分がクロカリでしたことを英語で資料を作るなど慣れないことが多く大変でした。これから国際交流が増えると思うので、英語の勉強を続けていかならないと思いました。
- ・正直言って私は勉強が苦手です。ですが、人とコミュニケーションをとることはすごく大好きです。この活動で苦手意識を少しでも改善出来たらいいなと思い参加しました。実際にトルコの方と交流してみてトルコの方は一人で15分間も英語を話せるということに圧倒されました。この活動を通してこの先に出会う多くの人と仲良くなるためにも勉強を頑張りたいと心から感じました。

### 神戸市立横尾小学校とのNIE 小高連携授業

2月5日(水)、生徒会役員が神戸市立横尾小学校を訪問し、小学6年生に新聞を使った防災に関する授業を行いました。

まずは、防災ジュニアリーダーとして石川県訪問で得た学びについて報告し、その後、阪神・淡路大震災と昨年1月に起きた能登半島地震の避難所生活を報じた新聞記事を用いてグループワークを行いました。新聞記事から避難所で困っていることを読み取り、必要な支援や、どのような対策をとるべきかを話し合い、最後は全体で発表を行いました。高校生にとっても、小学生に教えるという体験を通して防災や新聞報道に関する意識が変化する貴重な機会となりました。



### 【2年次課題研究「“越える”力を育む国際的科学技术人材育成プログラム (ROOTプログラム)」基礎ステージ修了】

本校2年次の有本悠大朗さん、呉祐樹さんが、ROOTプログラムの「基礎ステージ」に参加し、3月2日に修了し、修了証を受け取りました。

ROOTプログラムは、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の支援のもと、神戸大学が実施機関となり、兵庫県立大学、関西学院大学、甲南大学と共同で運営されています。本プログラムは、科学の分野において強い好奇心・探求心を持つ高校生が、将来的に国際的に活躍する科学者や技術者へと成長することを目的とした教育プログラムです。有本さんと呉さんは、全国からの応募者の中で高倍率の審査を突破し、7月のオリエンテーションを経て、約半年間にわたり本プログラムに取り組みました。この期間中、彼らは数多くの幅広い科学分野に携わる大学教員による講義や実習を受講し、大学の研究者の指導のもとで自ら問いを立て、研究に挑戦しました。

プログラムの最終段階では、研究実施計画の発表が行われました。二人は、それぞれの研究テーマを設定し、科学的手法に基づいた計画を立案・発表しました。発表では、課題設定の独自性や研究の将来性、論理的思考力が評価され、後の研究活動への意欲をさらに高める機会となりました。



ROOT

<https://gsc-root.org/about/>